第８７回神戸大学経営協議会議事要録

日　　時　令和元年９月２０日（金）　１５：３０～１７：２８

場　　所　神戸大学本部　大会議室

出 席 者　武田議長（学長）、
坂田委員、藤井委員、森口委員、水谷委員、小川委員、岡田委員、
吉井委員、小田委員、品田委員

（オブザーバー）外村監事、林監事、坂本副学長、齋藤副学長、増本副学長、
國部副学長、中村副学長

欠 席 者　天野委員、井戸委員、小林委員、佐藤委員、髙士委員、寺島委員、
久元委員、杉村委員、加藤委員

議事要録について
第８６回経営協議会の議事要録について、特段の意見はなく、役員会として確認の上、神戸大学のホームページに公表する旨説明があった。

審議事項　　［委員からの主な意見等（○：意見・質問）］

１　先端融合研究推進組織の名称変更及び高等研究院の設置について
世界最高水準の卓越した研究活動の推進、専門分野を越えた学内連携研究の推進及び優秀な若手研究者の採用・養成の推進等を目的として、令和元年１０月１日付けで先端融合研究推進組織を総合研究推進組織へ名称変更した上で、総合研究推進組織に高等研究院を設置することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

○　高等研究院の設置目的に優秀な若手研究者の養成の記載があるが、若手研究者の養成はあらゆるセクターにおいて取り組むべき課題である。高等研究院は、他とどのように異なるのか。

→　若手研究者の採用・養成については、数値目標を立てて全学的に取り組んでいる。一方、高等研究院は、既存の枠組みにとらわれない全学の研究者間での連携や、高度な研究活動を実践できる環境の提供を目指したもので、そのような研究に取り組む優秀な若手研究者を全学として支援し、将来的に本学の大きなプロジェクトとして育てていきたいと考えている。

○　組織再編に終わることなく、高等研究院の明確な定義付けや、運営、取組内容の外部への発信等実績が伴うように進めていただきたい。

○　高等研究院の予算措置はどのように考えているのか。

→　今後、活動拡大と共に予算措置や人事ポストについて検討していく。

○　海共生研究国際アライアンスは、海外機関との間で具体的な連携等を行っているのか。

→　連携等に関しては、海共生研究国際アライアンスの中核組織である海洋底探査センターが先行しており、国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）や海外研究機関と連携し、その所有する船を用いる等して調査・研究を行っている。本アライアンスを通じて、海洋立国に向けた政策提言を発信していきたいと考えている。

○　高等研究院の名称にふさわしい研究アライアンスを選抜し、取り組んでいただきたい。

→　現在、世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）の採択を目指し、極みプロジェクトという取組みを行っており、その中で進行中のホログラフィック顕微鏡の開発を目指した研究等が具体例としてあげられる。これは、光学、医学、生物学及び情報工学等の多分野の研究者が協力した異分野融合型研究であり WPI 採択を目指している。

２　国立大学法人神戸大学学則等の一部改正等について

先端融合研究推進組織を総合研究推進組織へ名称変更すること及び高等研究院を設置することに伴い、以下の規則等を一部改正等することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

１　国立大学法人神戸大学学則（一部改正）
２　神戸大学高等研究院規則（制定）
３　神戸大学高等研究院運営委員会規程（制定）

３　神戸大学バリュースクール（V.School）の設置について

神戸大学バリュースクール（V.School）の設置について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

○　「価値創発」や「価値設計」が具体的にどのようなものなのか、しっかりと学べるカリキュラムを構築し提供する必要がある。

→　既に一部の研究科において、価値創発や価値設計に係る講義や PBL 学習を行っており、これらを基に各研究科及びセンターの協力のもと、２年間の試行期間中により洗練された教育モデルを体系化の上、提供する。

○　イノベーションは、社会が認めて初めてイノベーションとなる。同様に、V.School で創り出された価値も、社会に認められる必要がある。そのためには、カリキュラムは講義主体ではなくアクティブラーニングを取り入れたり、外部の有識者や起業家等が参画することが必要である。

→　V.School に起業部という部署を作ることを考えている。これは V.School において創り出された価値を、社会に実装できないか、実践する場であり、その一員として現在企業で活躍されている方に参画いただくことを予定している。

○　価値創造できる人材を育成するには、一定の学力水準にあるだけでなく、他と異なる資質を持った学生を見出し、それを伸ばすことが必要と思われる。例えば、一般選抜入試と異なる観点からの選抜方法は考えているのか？

→　昨年より新たな入試制度として、「志」特別入試を取り入れている。これは、一定水準の学力に加え、社会に貢献したいという高い志や熱意、自分の考えていることについて高い発信能力を持った学生等を見出すための選抜制度で、この制度によって入学した学生については、とくに積極的に海外留学やデータサイエンスを修学の上、さらには V.School につなげていきたいと考えている。それらの学生全てが、価値創造に至る有為な人材になるのは難しいと思われるが、できる限り多くの学生の可能性を伸ばし、社会に貢献できる人材を育成したいと考えている。

○　学生はそれぞれの学部又は研究科に所属し、そこでの授業を受けつつ別途 V.School を受講するわけだが、学生に過度な負担を与えないよう、カリキュラムの時間的配分について考慮する必要がある。

→　具体案についてワーキングで検討していく。

○　神戸大学 Value　Creator の認証付与にあたっては、単に授業を修了したということではなく、一定の評価を得た価値創造を行ったという成果をもって判断いただきたい。また、評価にあたっては学外者が参加していることが必要である。

→　神戸大学 Value　Creator の認証付与は厳格に行う。また、学外者の参加については、ワーキングで検討していく。

○　価値創造する人物とはどのような人物なのか、学生に対し具体的な人物像を示すことができれば、より分かり易いと思われる。

→　検討していきたい。

報告事項　　［委員からの主な意見等（○：意見・質問）］

１　令和元年 人事院勧告について
令和元年の人事院勧告の概要及び本学における対応案について報告があった。

２　平成３０事業年度 財務諸表の承認について
平成３０事業年度の財務諸表について、文部科学大臣の承認を受けた旨報告があった。

３　令和元年度 国立大学法人運営費交付金の重点支援の評価結果について
令和元年度 国立大学法人運営費交付金の重点支援の評価結果の概要について報告があった。

○　現在の評価指標は教育の観点が考慮されていない等の問題があり、国立大学協会は修正に向けて強く意見を述べるべきである。一方で、今後も評価指標は変更される可能性がある。仮に変更となった場合でも、運営費交付金の配分が減額とならないように、対応を検討いただきたい。

→　国立大学協会においてワーキンググループを作って評価指標の検討を行った。文部科学省へは、第４期中期目標期間における評価指標について、国立大学協会と共に検討していくことを要望しているが非常に難しい。

４　令和２年度 概算要求の概要について
令和２年度の概算要求の概要について報告があった。

５　海洋政策科学部（仮称）の設置について
海洋政策科学部（仮称）の設置について報告があった。

○　海洋人材の育成に関して、国の海洋基本計画は何らかの言及をしているのか。

→　海洋基本計画では、「海洋開発の基盤となる人材の育成」の項目において、産学連携の推進や産業界のニーズ等に留意したカリキュラムの検討等の記載があり、それらを踏まえた上で、新学部の設置を進めている。

６　　統合報告書の発行及びシンダイシンポ２０１９の開催について
　統合報告書の発行及び報告書発行を記念したシンダイシンポ２０１９を開催することについて報告があった。

◎　次回は、令和元年１１月２５日に開催予定。